

4 森づくりの方向性

「3 あきる野市が目指す森づくりの姿」で示した基本方針 1 により、いずれの森においても、森の多面的機能を高める“環境の森づくり”を進めることを基本とします。

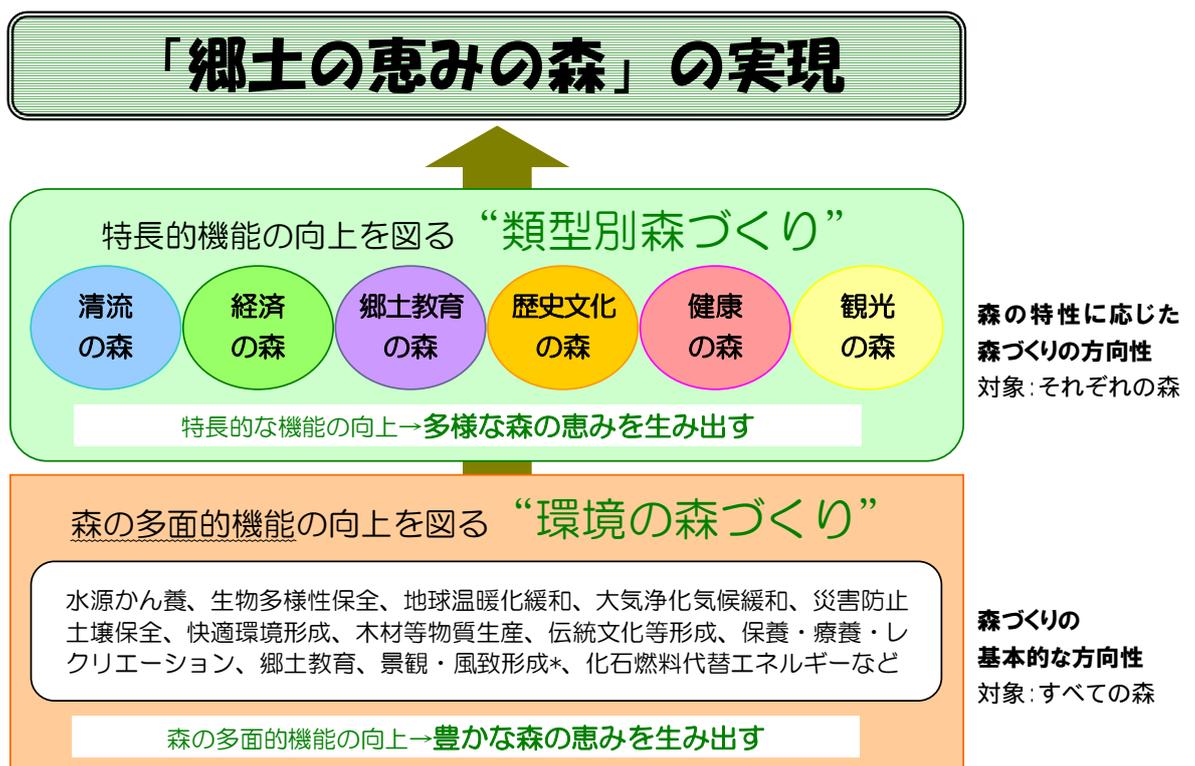
なお、多様な森が存在するあきる野市では、それぞれの森や地域の特性が場所（地区）により大きく異なることから、森づくりの方向性を「類型別」、「地区別」の2つの視点から決めました。

(1) 森づくりの基本的な視点 ～環境の森づくり～

森づくりを進めるに当たっては、それぞれの森の特性を活かし、将来にわたってどのように利活用していくかを考慮していくことが必要です。しかし、利活用のみを考えた森づくりでは、その森の機能を十分に発揮できない可能性があります。

そこで、あきる野市では、それぞれの森の特性を活かす機能を高めつつ、他の多面的機能の向上も図る“環境の森づくり”を行います。例えば、木材生産を中心とする「経済の森」であっても、多面的機能のひとつである物質生産機能だけを向上させるのではなく、水源かん養機能や防災機能、生物多様性保全機能、景観形成機能なども同時に高めていけるような施業を行います。それによって高まった機能を他の目的にも活かしていき、利活用の幅を広げます。

このような“環境の森づくり”によって、ひとつの森からひとつの恵みを得るのではなく、あきる野市全体の森から多様な恵みを得ることができます。そして、その多様な恵みを得ることができる森こそが、あきる野市が目指す「郷土の恵みの森」なのです。



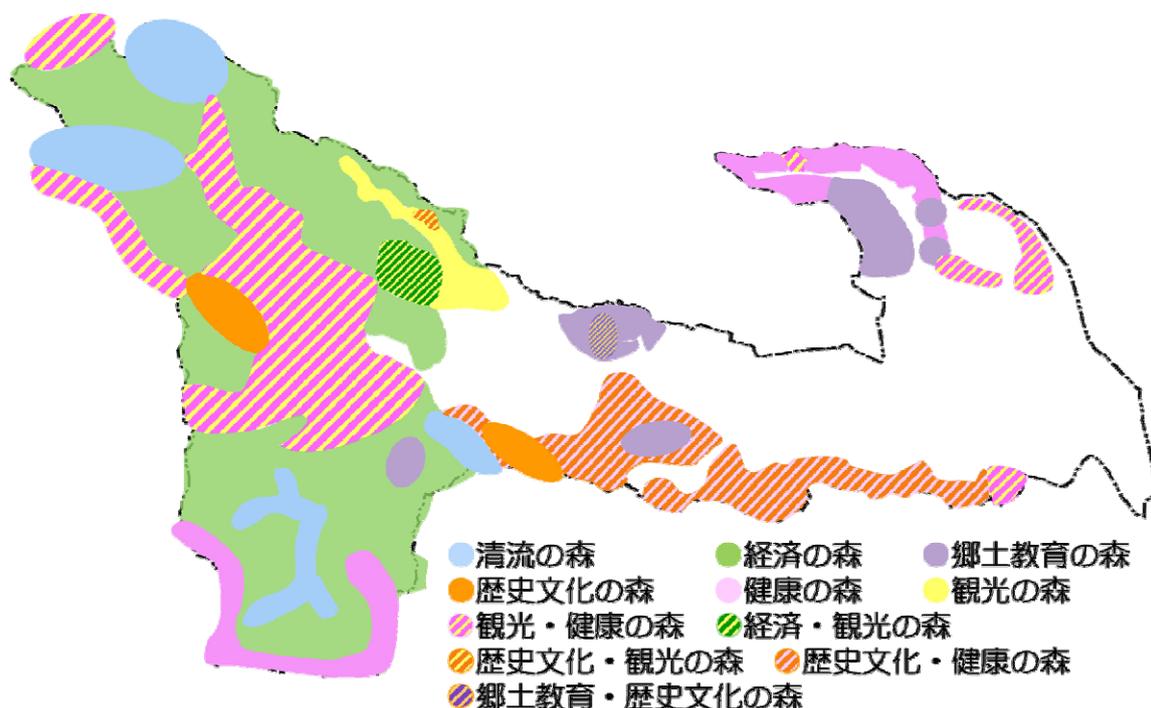
(2) 類型別森づくりの方向性

① 森の類型区分

森の特性や森が与えてくれる恵みの種類、森の資源、利用状況、地域の意向などから、『清流の森』、『経済の森』、『郷土教育の森』、『歴史文化の森』、『健康の森』、『観光の森』という6つの類型を設定しました。なお、森の特性によっては『観光・健康の森』のように複数の類型に該当する森もあります。

それぞれの森の特長及び位置は、次のとおりです。

清流の森	豊かな緑と水に恵まれ、現状でも森の持つ水源かん養機能などが十分に発揮されているとともに、様々な動植物が生息・生育していると考えられ、将来にわたって現在の姿を守り伝えたい環境が存在する森
経済の森	スギ・ヒノキの人工林が中心の林相で、現在経済林として管理されている森や林産物が生産されている森、また、今は手入れがされていないが今後木材生産を行っていく森
郷土教育の森	人々の暮らしと結びつきが深かった森（里山）で、人が入りやすく、炭焼きや落ち葉かき、山野草を用いた郷土料理などの「森の恵み」を暮らしに活かす知恵や技を伝えられるフィールド・拠点がある森
歴史文化の森	歴史が古く著名な文化財がある寺院や地域に根ざした神社、それらを囲む鎮守の杜（森）、城跡、遺跡、古い街道など、地域の歴史や文化を伝える資源が周辺に多く存在する森、昔話などが残る森
健康の森	散策やハイキング、登山をはじめ、山岳耐久レース*、ロッククライミングなど、健康づくりやレクリエーションのほか、趣味、スポーツなどにも利用できる森
観光の森	キャンプ場、釣り場などのレジャー施設、季節の花の名所や特長的な自然景観などの見所があり、宿泊施設や飲食店が充実しているなど、観光客を受け入れることが可能な森



② 類型別の森の将来イメージ

● 清流の森

豊かな緑と水に恵まれた良好な環境がみんなの力で守られ、清流のせせらぎを聞きながら、自然の心地よさを感じることができる。

また、自然環境について学んだり研究したりするフィールドとしても利用できる。



● 経済の森

計画的な施業により、適度に間伐されたまっすぐで太い木が育ち、木材生産で十分な収益を得ている。

また、企業の森やカーボン・オフセットなど多様な手法により、管理を行う人材や資金が確保されている。



● 郷土教育の森

人と森とがかかわる中で培われてきた技や暮らしの知恵を、体験を通して学びながら、世代間交流を深め、地域や森への愛着を育てている。

多様な動植物と身近にふれあい、観察会や自然体験学習なども行われている。



“環境の森づくり”により多面的機能が高められ、豊かな「森の恵み」を得ている

● 歴史文化の森

森の美しさや厳かな雰囲気を感じながら、寺社やその周辺の鎮守の杜、史跡・文化財等を巡り、歴史や文化を感じたり学んだりすることができる。

語り部（案内人）の話の聞いたり、古道を散策するなど、様々なかたちで歴史・文化にふれることができる。



● 健康の森

市民が気軽に散策できる癒しの空間で、森林セラピーなどにも利用されている。ハイキングコースや登山コースなども充実しており、子どもからお年寄りまで様々な人が、健康づくりやレクリエーションなど、用途に応じて利用している。



● 観光の森

年間を通して多くの観光客が訪れて、四季折々の花々や風景を楽しみながら、自然のすばらしさや森の美しさを体感している。

地域住民も参加して多様な体験イベントや催しなどが開催され、森への関心も高まっている。

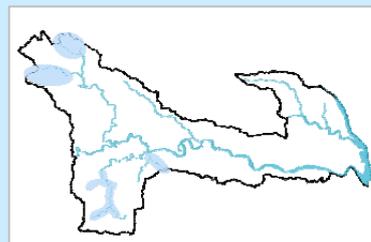


③ 類型別森づくりの方向性

● 清流の森

現存する健全な森や良好な周辺環境を将来にわたって守り伝えていくための森づくりを行います。

◎主な対象地 伝名沢、逆沢、養沢川源流域、大岳沢



○希少動植物がすめる環境や貴重な生態系を守り伝える

- ・希少動植物の生息・生育場所や貴重な生態系が存在する場所など保全すべき場所を把握し、現状調査を行います。
- ・調査や保全方策の検討を行う人材を育成・活用します。



○自然環境を学ぶ場、研究の場として活用する

- ・自然環境について学べるように、環境教育プログラムづくりなどに取り組みます。
- ・環境教育プログラムを作成・実施する人材を育成・活用します。
- ・学校や研究機関、民間団体、市などの多様な主体が連携し、希少動植物などの研究を進めます。



【コラム】貴重な動植物がすむあきる野

私たち人間の活動の広がりに伴い、生き物たちの生息・生育環境が失われたり、悪化したりして、以前は身近にいた動植物もその土地にすめなくなり、絶滅してしまう恐れがあります。

東京都では、「東京都の保護上重要な野生生物種」をとりまとめ、絶滅の恐れによってランクづけしています。あきる野市を含む西多摩地域では、植物 472 種、鳥類 43 種、哺乳類 24 種、爬虫類 11 種、両生類 9 種、淡水魚類 15 種、昆虫類 148 種がリストアップされています。

その中には、ヤマセミやヤマメ、ゲンジボタルなどの清流でみられる動物や草花丘陵ではじめて発見されたトウキョウサンショウウオをはじめ、モリアオガエル、シマヘビ、キツネなどの動物、溪流沿いの岩場にみられる植生や里山に生育する植物など、あきる野市では比較的身近にみることができるものも含まれています。これらの動植物がすめるということは、あきる野市には、昔ながらの豊かな自然環境が残っているということを意味します。

しかし、これらの動植物も、数が減ってきているという情報があります。あきる野の豊かな自然の象徴でもあるこれらの動植物を守っていくためには、その生息・生育環境をなるべく広範囲で残し、その生態系全体の保全を考えていく必要があります。



ヤマメ



トウキョウサンショウウオ

●経済の森

林業経営の安定化を図り、多面的機能を高めつつ、価値が高い木材の生産を目指した森づくりを行います。

→54 頁「価値を高める経済の森づくり」参照

◎主な対象地 戸倉財産区（54 頁参照）、養沢川中流域



○施業の継続と木材生産の安定化を進める

- ・森林境界の確定や林道・作業道づくりを進めます。
- ・森林組合と協力して、森林施業プランナー*を各地区に配置します。
- ・必要に応じてある程度まとまった面積を一度に施業するなど、作業の効率化や機械化を図ることにより、施業コストの削減と採算性の向上を目指します。
- ・長期施業計画に基づき施業を行い、林齢の平準化*や木材の安定供給を進めます。



○人材を確保する

- ・技術継承者の育成を図り、施業の継続と木材生産の安定化を支援します。
- ・企業や民間団体、ボランティアなどと連携し、施業の担い手を確保します。

○森の価値を高める

- ・森林認証*の取得や定期的な森の健全性評価を行います。
- ・森の二酸化炭素吸収機能をカーボン・オフセットなどの取組に活用します。
- ・木材として利用できない間伐材や林地残材は、木質バイオマスエネルギー*としての利用をさらに推進します。
- ・多摩産材のブランド化を通じて、秋川産材の利用促進を図ります。
- ・木材生産者や製材・加工業者、消費者をネットワークでつなげ、木材の安定供給の仕組みづくりや利益が生じる価格の設定、ニーズに沿った木材生産への転換、流通の効率化などに取り組みます。
- ・林産物を有効に活用し、特産品の研究・開発やイベントの開催・PRなどを行い、森の魅力と価値を高めます。

【コラム】秋川産材の利用促進を目指して

多摩産材のひとつである秋川産材の利用促進のため、秋川産材利活用検討委員会*が、公共工事や公共施設などへの秋川産材の利用等を提言しました。これをふまえて、JR 武蔵五日市駅東側に、秋川木材協同組合による「多摩産材モデルハウス」が建設されました。また、平成 21 年（2009 年）2 月には、市内の木工関係者による「あきがわ木工連」が組織され、「東京でつくる、つなぐ、つかう。」をコンセプトに、家具や建具などの創作活動を行っています。



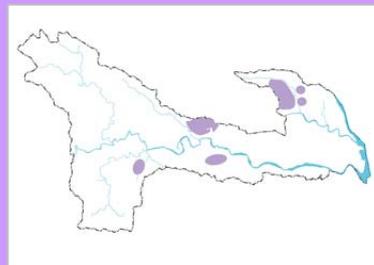
多摩産材
モデルハウス

●郷土教育の森

郷土教育を通じて「ふるさとの里山風景」を再生するような森づくりを行います。

→52 頁「里山への回帰による森づくり」参照

◎主な対象地 菅生若宮、網代弁天山、横沢入、みなと区民の森



○郷土教育を通じて、匠の技の伝承と世代間交流を進める

- ・「森の恵み」を暮らしに活かす知恵や技を持っている匠（たくみ）を発掘します。
- ・匠の技を伝承するリーダーを育成します。
- ・匠の技の伝承と里山管理を兼ねたプログラムをつくります。
- ・様々な世代がプログラムにかかわることにより、世代間交流を図ります。



○身近な自然の素晴らしさを伝える

- ・身近な動植物の観察会や自然体験プログラムなどの環境学習を継続します。
- ・身近な自然の素晴らしさを伝えるリーダーを育成します。

○里山を利用する暮らしを再現する

- ・落ち葉や下草を田畑で使う、雑木林の間伐材でシイタケのほだ木をつくる、間伐材を燃料（薪、炭）として使うなど、里山から得られる多様な恵みを利用した暮らしを再現し、体験できるようにします。

【コラム】菅生若宮地区子ども体験塾事業「里山探検隊」

この構想のモデル事業として、菅生若宮地区の市有林を活用し、菅生、四軒在家及び小宮久保町内会の各町内会長、あきる野青年会議所、環境学習等に精通した方によって構成する実行委員会の主催で、郷土教育をテーマとした菅生若宮地区子ども体験塾事業を実施しました。

菅生、四軒在家、小宮久保の地域の皆さんやふるさと農援隊、青年会議所など、多様な主体が協働して、夏と冬の「里山探検隊」を開催し、子どもたちとともに様々な体験や発見をしました。



森の管理体験の様子

里山探検隊(夏)

里山のいきもの探しやセミの抜け殻探し、森の管理体験(草刈)をしました。

夏の力強い自然の息吹が印象的でした。



しいたけの原木づくりの様子

里山探検隊(冬)

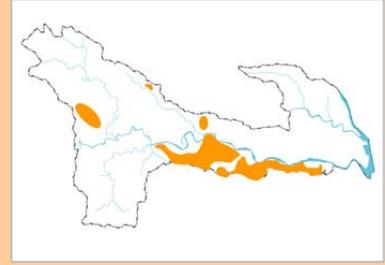
落ち葉かき、しいたけの原木づくり、竹とんぼづくりをしました。

朝の雪化粧をした里山が印象的でした。

●歴史文化の森

寺社や史跡・文化財などの魅力をさらに高めるために、様々な歴史・文化にふれたり、学んだりできるような森づくりを行います。

◎主な対象地 五柱神社周辺、深沢家屋敷跡、広徳寺周辺



○多様な手法で歴史・文化を伝える

- ・歴史・文化や昔話に詳しい「語り部」を発掘・育成し、「語り部」を案内人とした歴史・文化探訪コースなどを設けます。
- ・旧街道・昔道などの古道を活かし、みち沿いの寺社を囲む鎮守の杜やみちの周辺の森に親しめるような散策路を整備・充実します。

→57頁「森に親しむみちづくり」参照

- ・昔話や地名の由来、地域に伝わる逸話、歴史的な出来事などを紹介する案内板を要所に設置し、歩きながら歴史・文化を学ぶことができますようにします。



○歴史・文化資源と一体化した森づくりを進める

- ・周辺の寺社や史跡・文化財、散策路などが持つ雰囲気や特徴に合わせて森づくりを進めることで、資源の魅力を高めます。

○森の資源を有効に利用する

- ・案内板や案内標識、休憩用のベンチなどに、市内の間伐材などを利用します。

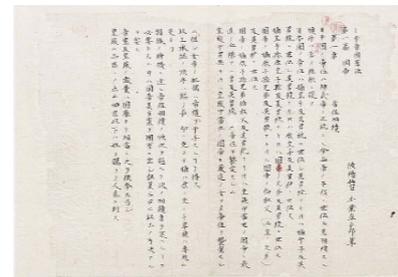


【コラム】五日市憲法草案 ～自由民権運動期の憲法私案～

明治の自由民権運動期に民権家である千葉卓三郎らが起草した全文 204 条からなる私擬（しぎ）憲法^{※10}草案です。作成されたのは、明治 14 年（1881 年）4、5 月頃と推定されています。

当時作られた私擬憲法の中でも条文数が非常に多く、特に現在の日本国憲法にも保障されている基本的人権に通じる「国民の権利」に関する規定が多数あるなど、当時としては画期的な内容が含まれ、高く評価されています。

五日市憲法草案は、昭和 43 年（1968 年）に深沢家の土蔵から発見され、東京経済大学に保管されていましたが、所有者である深沢家のご好意により、現在は、市の中央図書館に移管されています。また、深沢家の土蔵がある深沢家屋敷跡は、東京都指定の史跡となっています。



五日市憲法草案

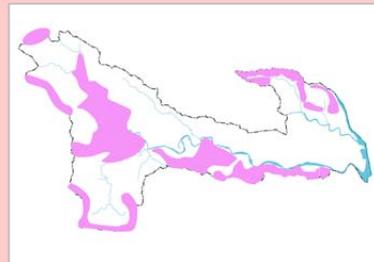
※10 私擬憲法 明治時代、大日本帝国憲法発布以前に民間で検討された憲法の私案のこと。

●健康の森

様々な人が健康増進に利用できるよう、安全に留意したみちづくりを行い、森の中を気持ちよく通ることができ、歩いて癒されるような森づくりを行います。

◎主な対象地 戸倉三山、菅生回遊ルート

(歴史文化・健康の森 →秋川・滝山丘陵、観光・健康の森 →秋川渓谷瀬音の湯周辺)



○気持ちよく歩ける森をつくる

- ・スギやヒノキによる美林の森づくり、沢沿いやみち沿いの広葉樹林化を進めることにより、気持ちよく歩けるようにします。
- ・安全で歩きやすいハイキングコースや尾根道などを整備します。
- ・案内板や案内標識、地図などを整備し、安心して歩けるようにします。
- ・みちや案内板などをつくる際には、市内の森の間伐材などを有効利用します。



○様々な人が健康増進に利用できる森をつくる

- ・子どもからお年寄りまで、様々な世代が利用できる散策コースを設定します。
- ・癒しから体力増強まで、様々な目的で、楽しく健康づくりができるよう、コース上に運動の効果などを示した看板を掲示します。
- ・休憩できる場所などを整備し、無理なく健康づくりができる森にします。ベンチなどを作る際には、市内の間伐材などを有効利用します。
- ・他の自治体との連携を図り、尾根道などのネットワーク化を図ります。

【コラム】「めざせ健康あきる野 21」のウォーキングの取組

「めざせ健康あきる野 21」（平成 19 年（2007 年）9 月策定）は、より豊かな人生を送るための一つ的手段として、健康づくりをどのように進めていくかを市民の皆さんと協働で考え、作成した健康づくりの計画です。

平成 19 年度（2007 年度）からは、計画づくりに参画した市民ボランティアと健康づくり市民推進委員を中心に、周知班、食育推進班、ウォーキング班をつくり、精力的に活動しています。

ウォーキング班では、地域での健康づくりを目指して、毎月 21 日に市内の様々な場所を散策するふれあいウォークを開催しています。参加者同士のふれあいを大切に、レクリエーションも交えた内容となっており、回を重ねるたびに参加者も増えています。休日には子どもたちも参加するなど、健康づくりを通して世代を超えた交流が進んでいます。

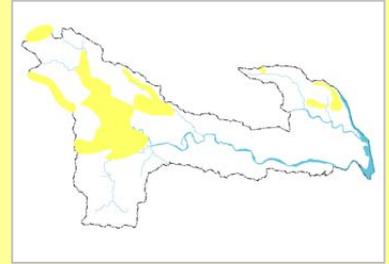


ふれあいウォークの様子
(秋川渓谷瀬音の湯)

●観光の森

各地の見どころを巡るルートの設定など、森の内外に存在する地域資源（観光スポット）の魅力をさらに高める森づくりを行います。 →50頁「魅力ある観光の森づくり」参照

◎主な対象地 城山周辺、秋川渓谷瀬音の湯周辺、深沢地区
（健康・観光の森 →馬頭刈尾根、草花丘陵）



○観光スポットと一体となった森づくりを行う

- ・連続性のある美しい森をつくり、観光スポットと一体的に楽しめるようにします。
- ・周遊ルート（後述）上では、自然の変化が楽しめるような植栽などを行います。
- ・案内標識やベンチを設置する際などは、市内の森の間伐材などを有効利用し、森と調和するデザインを採用します。



○観光スポットをつなげ、森全体を楽しめるようにする

- ・見所をつなぐ周遊ルートを設置したり、既存施設や駅から散策路に誘導するなど、森全体を楽しめるような整備を行います。
- ・案内板や案内標識、地図などを整備し、安心して楽しく歩けるみちをつくりま

○四季を通じて楽しめる森をつくる

- ・四季の花木を植えたり、季節ごとの美しい場所を発掘・PRし、四季を通じて観光客に来てもらえるような森をつくりま
- ・季節ごとの観光コースを設定しま
- ・周辺の宿泊施設や飲食店でも、季節を感じられるような工夫を行いま



[コラム]大自然を楽しむ溪流釣り

養沢川流域などでは、溪流の醍醐味のひとつである「溪流釣り」が楽しまれています。秋川漁業協同組合の管理のもと、秋川国際マス釣り場や日本で最初のフライフィッシング専用釣り場など、初心者や家族連れでも楽しめる施設にたくさんの釣り人が訪れ、釣りを楽しんでいます。特に、釣りをはじめることができる解禁日は、釣りファンにとっては待ち遠しい1日となっています。

溪流の清らかな水も、森の健全な環境の重要な要素であることを忘れてはなりません。森を守ることが豊かできれいな水を生み、



秋川国際マス釣り場での風景

美しい溪流をつくり、生き物を育み、さらには私たち人間を楽しませてくれているのです。

【コラム】森の多面的機能を高めるために ～市内のモデル的な取組の紹介～

森の多面的機能を高めるためには、特に高めたい機能に応じた施業を選択することが必要ですが、適切な管理を進めることは、多面的機能全体の向上につながります。

人工林においては、適切な間伐や枝打ち、下草刈りなどの管理が欠かせません。適切な管理を行っている人工林からは、まっすぐで太く良質な木材が産出されます。しかし、木材生産機能だけが高まるわけではありません。その森は、外観が美しい“美林”であり、林内が明るく下層植生が豊かな健全性が高い森でもあります。さらに、私たちの健康づくりや病気などの療養にも効果をもたらします。

適切に管理されている森の代表といえるのが、戸倉財産区の石仁田間伐展示林です。この森は、あきる野市森林整備計画に基づく「要間伐森林^{※11}」の間伐を促進するために、優良モデルとして指定され、名実ともに人工林のモデルとなっています。



石仁田間伐展示林



臼杵山尾根部における花粉対策事業

また、木材生産機能以外の機能の向上を主目的とする場合は、針広混交林化や広葉樹林化を図ることもあります。

様々な尾根筋の市有林では、東京都の花粉対策事業を活用し、針葉樹を伐採して一定割合の広葉樹を植えるなど、針広混交林化を進めています。これにより、尾根筋の眺望の確保や紅葉などの景観の向上を図り、さらに花粉の少ないスギの植樹などにより花粉対策を行っています。

針広混交林化を進めることで、水源かん養機能や山地災害防止機能の向上も期待されます。

五日市地区の自治会長 OB や現役の自治会長の皆さんなどを中心とする「自然を昔に戻す会」では、様々な場所で広葉樹林化を進めています。広葉樹を植えるとともに、広葉樹が一定規模にまで生長する間、下草刈りなどの管理も行います。これにより、美しい景観の形成はもちろん、河川水量の増加や景観の向上、日影エリアの減少、生物多様性の向上なども期待されます。



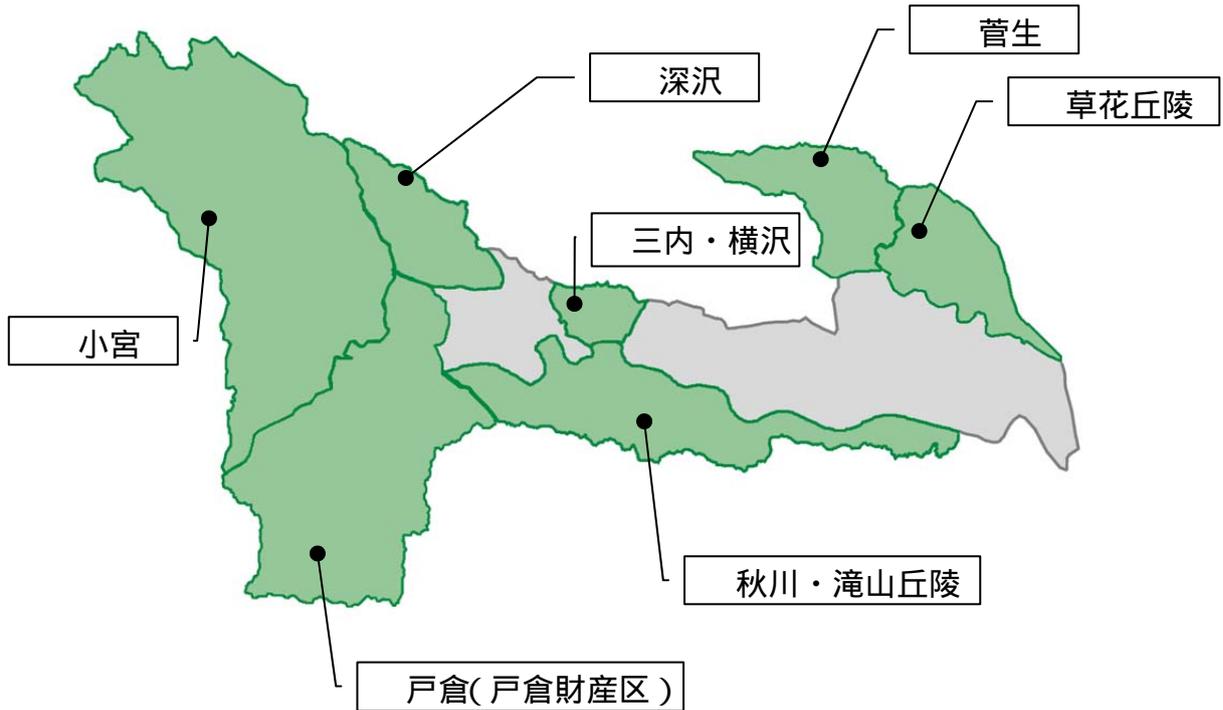
下草刈りの様子

※11 要間伐森林 間伐又は保育を適正に実施する必要がある森林（森林法第 10 条 5）

(3) 地区別森づくりの方向性

この構想の対象となる市域の森を地形、植生、資源の分布など（資料調査より）と町内会・自治会の単位などから、主要となる7つの地区に区分しました。
ここでは、それぞれの地区での森づくりの方向性を示します。

地区区分図



地区別の「森づくり方針図」の凡例

森づくりの方向性	  : 森づくりの方向性（類型）   : 森づくりの方向性（みちづくり）
地区の資源など（現況）	 : 滝  : その他資源  : 温泉  : 川  : 眺望ポイント  : ハイキングコース  : 山  : 林道  : 神社  : 主な古道（昔道・尾根道など）  : 寺院  : 主な道路

① 戸倉地区(戸倉財産区)

■森の特徴と地域資源

- ・ 戸倉財産区を中心に経済林が広がっている。また、水道水源林*や間伐展示林など、手入れが行き届いた美林がある。
- ・ 戸倉三山（臼杵山、市道山及び刈寄山）、城山などの地域を代表する山があり、それぞれ眺望が楽しめる。
- ・ 伝名沢、千ヶ沢、金堀沢が盆堀川に、逆沢が刈寄川に流れ、それぞれが秋川に合流しているなど、豊かな水環境がある。

■森づくりの課題

- ・ 後継人材の不足や木材流通条件の悪化などにより、継続が困難となっている林業を中心とした森林経営や維持管理のあり方を見直すことが必要
- ・ よく手入れされた美林、戸倉三山、逆沢などの沢、刈寄の滝、秋川溪谷瀬音の湯などの資源を利活用することにより、森の魅力を高めることが必要

地区の現況



※12 絞り丸太

表面に波状の縦シワのある杉の丸太で、主に床柱として使用される。シワは、天然にできるものと、立木に竹やプラスチックの当て木を巻いて人工的に作られるものがある。北山杉が有名である。

■森づくりの方針、具体的取組

経済林としての管理を持続させながら、沢沿いの豊かな自然景観を保全し、水道水源林としての水源かん養機能の維持を図るような森づくりを進めます。

また、城山から秋川渓谷瀬音の湯までを巡ったり、戸倉三山での登山や眺望を楽しむなど、資源を満喫しながら散策できる森を目指します。

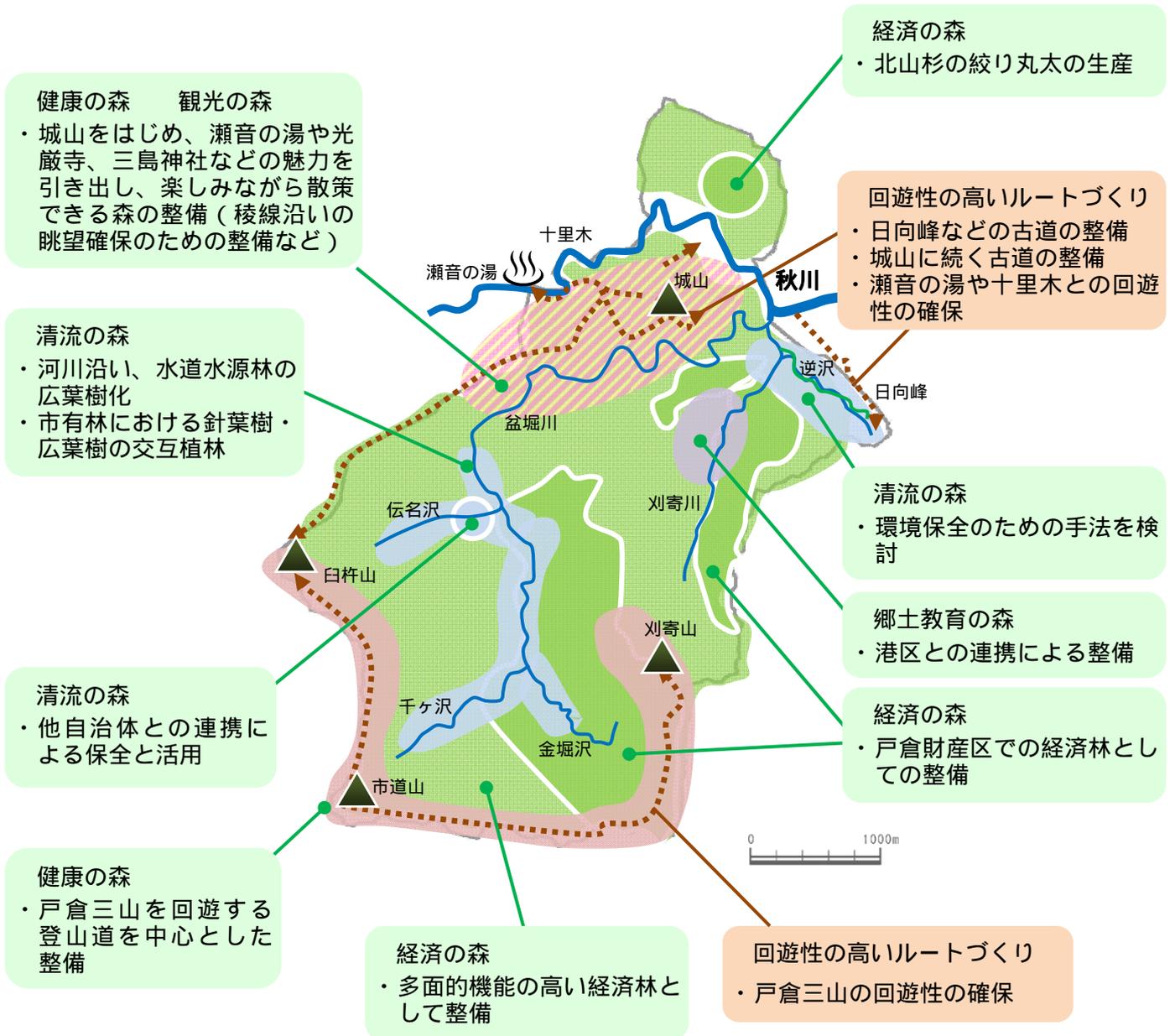
経済林の新たな価値の創造・発掘（多摩産材（秋川産材）需要の向上）

企業など様々な主体と連携した森づくりの検討

自然資源（沢、滝）などに着目した活用方法の検討・発掘

景観整備などの自然資源の魅力を高める森づくりの展開

地区の将来イメージ



② 小宮地区

■森の特徴と地域資源

- ・ 市内でも比較的標高が高いこの地区では、秋川、養沢川に沿って森が広がっている。地区の大半は、秩父多摩甲斐国立公園に指定されている。
- ・ 滝（大滝、小滝、矢柄の滝など）、鍾乳洞（大岳、三ツ合など）、巨木（五柱神社の大スギ、養沢神社のトチノキなど）、眺望のよい場所（富士見台、馬頭刈山、上高岩山など）といった資源が豊富である。
- ・ 市内外からの来訪者でにぎわう秋川渓谷瀬音の湯やフライフィッシング場、マス釣り場など観光施設がある。
- ・ 地域の自治会による広葉樹林化やボランティアによる森の整備など、住民参加型の森づくりが進められている。

■森づくりの課題

- ・ 後継人材の不足や木材流通条件の悪化などにより、継続が困難となっている林業を中心とした森林経営や維持管理のあり方を見直すことが必要
- ・ 林道・作業道や古道などの路網整備により森への入りやすさを向上させ、地域資源を活用した人と森とのかかわりを深めることが必要



■森づくりの方針

養沢川源流域や大岳沢などがある森では、水源かん養や生物多様性保全といった機能を維持・向上するような森づくりを進めます。

多くの人々が訪れる秋川流域では、奥多摩に連なる山々や鍾乳洞、沢、滝、川などの自然資源を活かし、人々が楽しめるような森づくりを進め、地域の活性化につなげます。

- 手入れ・施業しやすい森づくりの展開(林道・作業道、古道などの整備)
- 経済林としての新たな価値の創造・発掘(多摩産材(秋川産材)需要の向上)
- 企業など様々な主体と連携した森づくり(企業の森など)を検討
- 自然資源の魅力を高める森づくりや自然資源を巡る回遊性の向上
- 地域の創意工夫(養沢活性化委員会)による森づくりの推進

地区の将来イメージ



③ 深沢地区

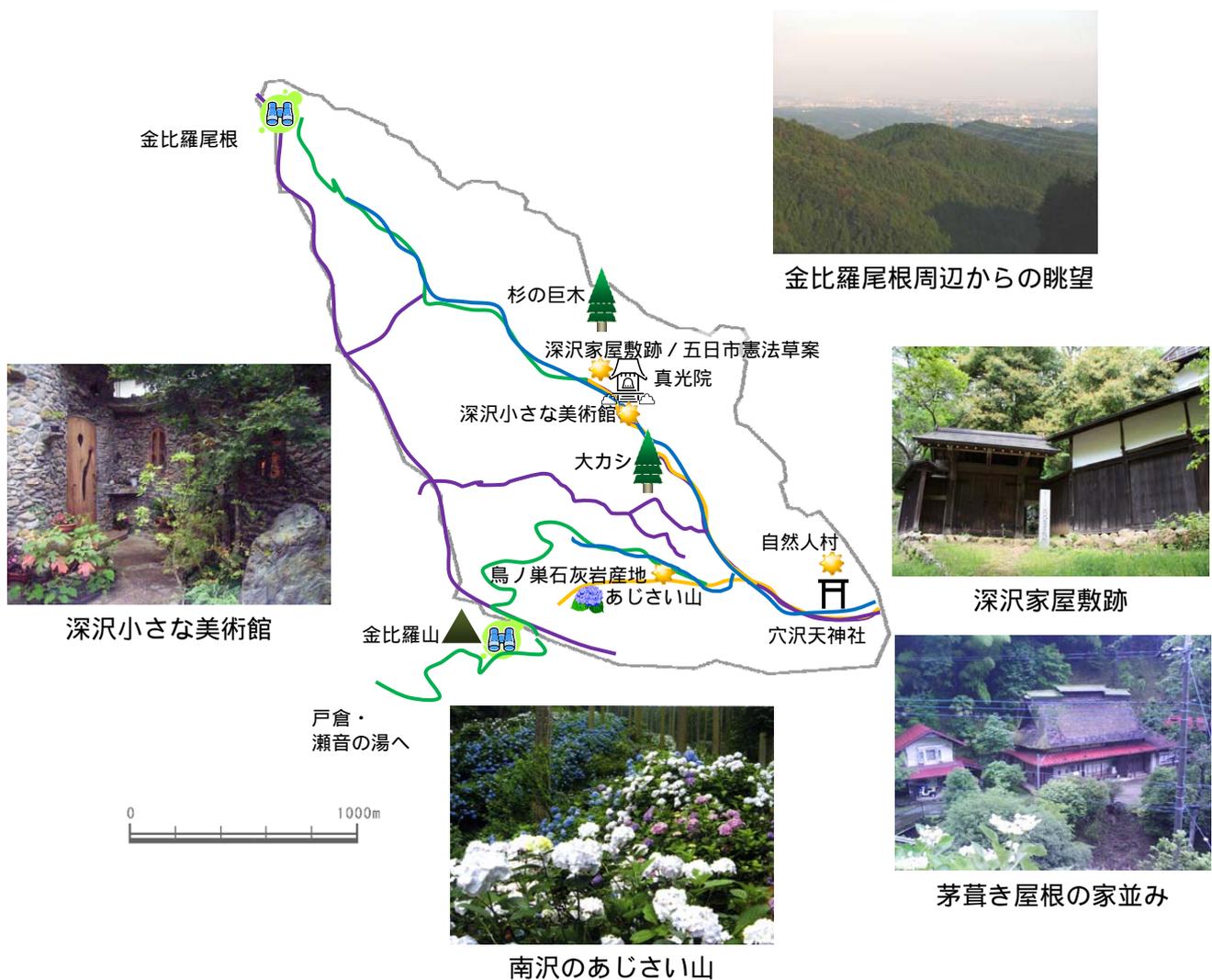
■森の特徴と地域資源

- ・ 南沢のあじさい山は、毎年2万人を超える人が訪れる観光スポットである。
- ・ あじさい山、金比羅山、五日市憲法草案発祥の地である深沢家屋敷跡、深沢小さな美術館、鳥の巣石灰岩産地、集落の懐かしい家並み（茅葺住宅）などの資源が多い。
- ・ 地区一帯は、経済林としての森が広がっている。

■森づくりの課題

- ・ アジサイが咲く時期に来訪者が集中する傾向があり、四季を通じた見所づくりが必要
- ・ 後継人材の不足や木材流通条件の悪化などにより、継続が困難となっている林業を中心とした森林経営や維持管理のあり方を見直すことが必要

地区の現況



金比羅尾根周辺からの眺望



深沢小さな美術館



深沢家屋敷跡



茅葺き屋根の家並み



南沢のあじさい山

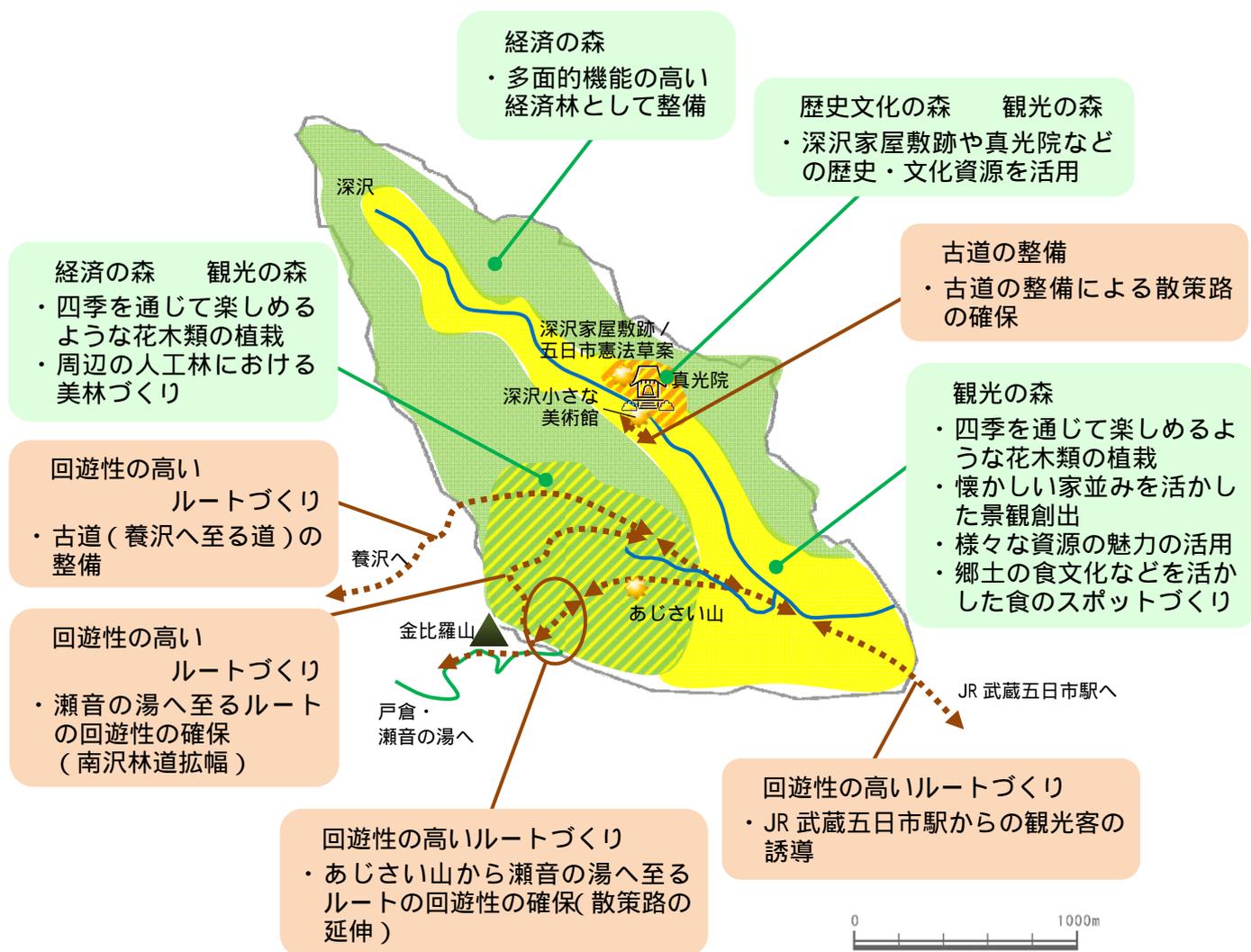
■森づくりの方針

JR 武蔵五日市駅のほど近くに位置するこの地区では、南沢のあじさい山、五日市憲法草案発祥の地である深沢家屋敷跡、深沢小さな美術館などの魅力ある資源を活かし、さらに魅力を高める森づくりを進めます。

四季折々の風景を楽しめるような花木の植栽、JR 武蔵五日市駅から秋川溪谷瀬音の湯や金比羅山に至る回遊ルート of 確保などを図ります。

四季を通じて楽しめる観光資源としての森づくり
 林道や散策路の整備などによる回遊性の向上
 経済林としての新たな価値の創造・発掘（多摩産材（秋川産材）需要の向上）

地区の将来イメージ



④ 菅生地区

■森の特徴と地域資源

- ・ 鯉川沿いのなだらかな丘陵地には、古き良き里山の面影が残る森が広がっており、トウキョウサンショウウオなどの希少な動植物が生息・生育している。
- ・ 正勝神社、組立舞台などの歴史・文化資源がある。
- ・ 周囲の尾根に沿って地区を回遊できる地形となっている。
- ・ 町内会など地域との協働により、菅生若宮子ども体験の森などを活用した新たな人と森とのかかわりを築きつつある。

■森づくりの課題

- ・ 多様な自然環境を有する里山風景を次世代に引き継ぐため、時代に即した里山の活用と再生に向けた取組を進めることが必要
- ・ 案内標識を充実させるなど、楽しみながら安心して歩ける散策路の整備が必要

地区の現況



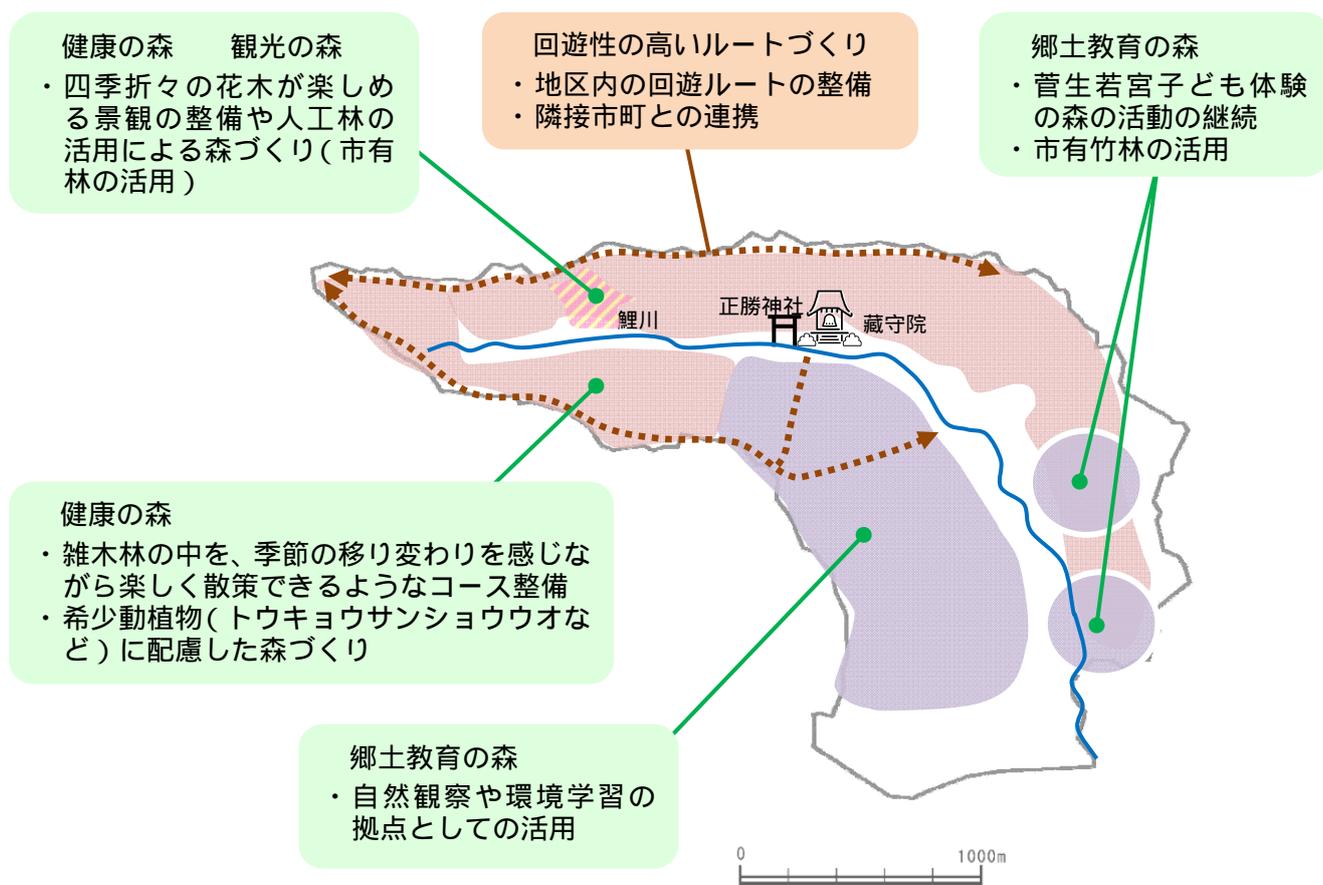
■森づくりの方針

森の維持管理への地域住民をはじめとする人々の参加、遊びや体験、学習活動を通じた森とのふれあいを高めるとともに、魅力ある地域づくりのための景観を整備するなど、新たな人と森とのかかわりを創出しながら、森づくりを進めます。

地区の外周など、気軽にハイキングや散策を楽しむことができるようにみちを整備し、健康づくりに活用するなど、多様な森の魅力を高めます。

里山体験や自然観察などの活動拠点となる森づくり
地域住民を中心に様々な主体との連携による森づくり
地域の創意工夫を活かした景観整備などの森づくり

地区の将来イメージ



⑤ 草花丘陵

■森の特徴と地域資源

- ・ 大澄山から浅間岳に至る丘陵地（都立羽村草花丘陵自然公園）に位置し、一帯に広がる雑木林が市民の憩いの場となっている。
- ・ 歩きやすいみちのハイキングコースが設定されており、隣接市との連続性がある。
- ・ 大澄山の周辺には、慈勝寺をはじめ、神社仏閣が点在している。

■森づくりの課題

- ・ 大澄山などからの眺望を確保し、森の魅力を高めることが必要
- ・ 森への親しみを高めるため、休憩所（ベンチ）などの整備や周辺の観光資源の活用が必要

地区の現況



大澄山の休憩所（東屋）



大澄山に続く散策路



慈勝寺



■森づくりの方針

大澄山や浅間岳を中心に、郷土の自然と文化を満喫しながら散策できる森づくりを進めます。

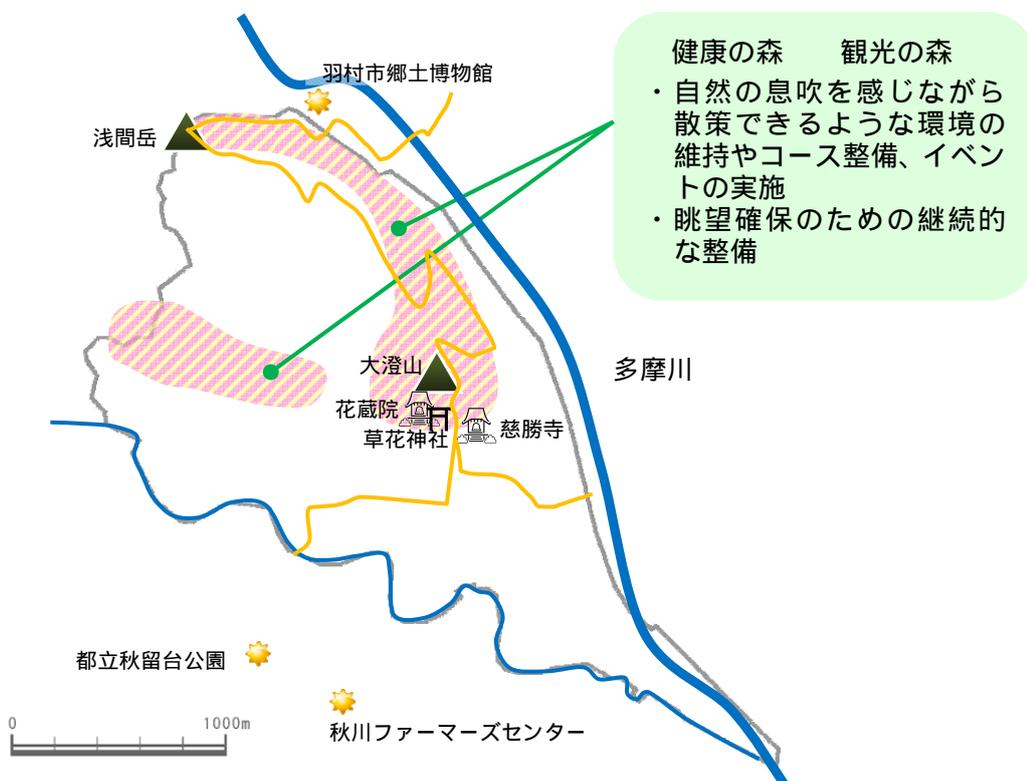
一帯に点在する神社仏閣をはじめ、隣接市も含めた地域資源（観光）との連続性も視野に入れ、森の魅力を高めます。

大澄山などからの眺望の確保

散策を楽しめるような設備などの整備

市内外の周辺地域資源との連携による森の魅力の向上

地区の将来イメージ



【コラム】慈勝寺の2本の巨木 ～モッコクとタブノキ～

慈勝寺には、モッコクとタブノキという2本の巨木があります。モッコクは東京都の天然記念物、タブノキはあきる野市の天然記念物に指定されています。モッコクは、目通り幹囲2.25m、樹高22.5mにもなります。この地方の名木で、江戸五木（江戸時代に江戸でよく使われた造園木）のひとつです。タブノキは日本の代表的な常緑広葉樹です。温暖な沿海地に多く自生し、ナンジャモンジャとも呼ばれます。



モッコク



タブノキ

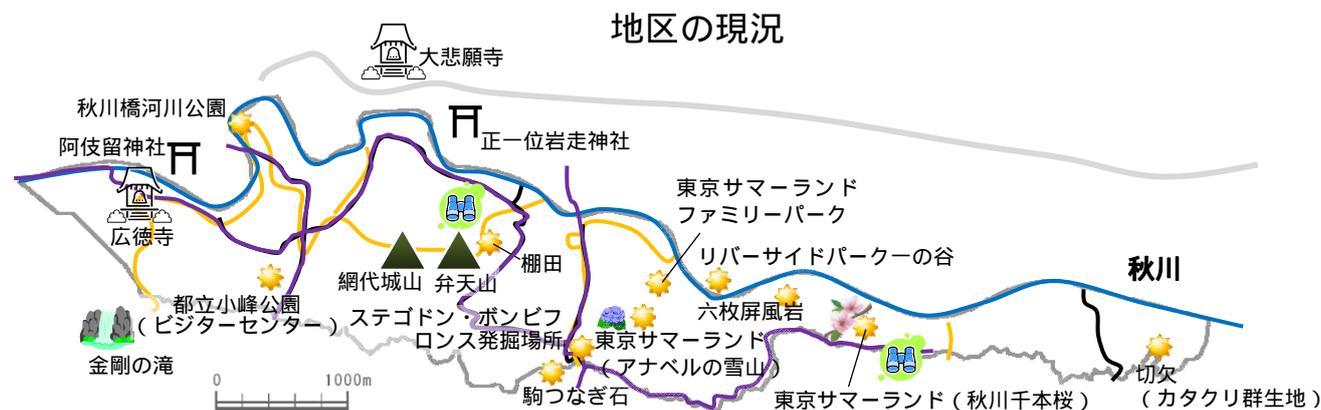
⑥ 秋川・滝山丘陵

■森の特徴と地域資源

- ・ 秋川沿いに緩やかに伸びる丘陵地(都立秋川丘陵自然公園・都立滝山丘陵自然公園)に沿って森が広がっている。
- ・ 弁天山や網代城山^{※13}、棚田、竹林、寺、神社、カタクリ、アジサイ、サクラなどの資源が豊富である。また、周辺に市内最大の観光施設がある。
- ・ 散策路は歩きやすく、市街地や丘陵を見渡せる眺望、四季折々の風景を楽しむことができる。

■森づくりの課題

- ・ 散策路における休憩場所の整備など、楽しみながら歩ける工夫が必要
- ・ 都立小峰公園をはじめとし、森の魅力を高める様々な主体との連携が必要



広徳寺



弁天山の山頂からの眺望



アナベルの雪山(アジサイ)



小峰公園のビジターセンター



棚田



切欠のカタクリ

※13 網代城山

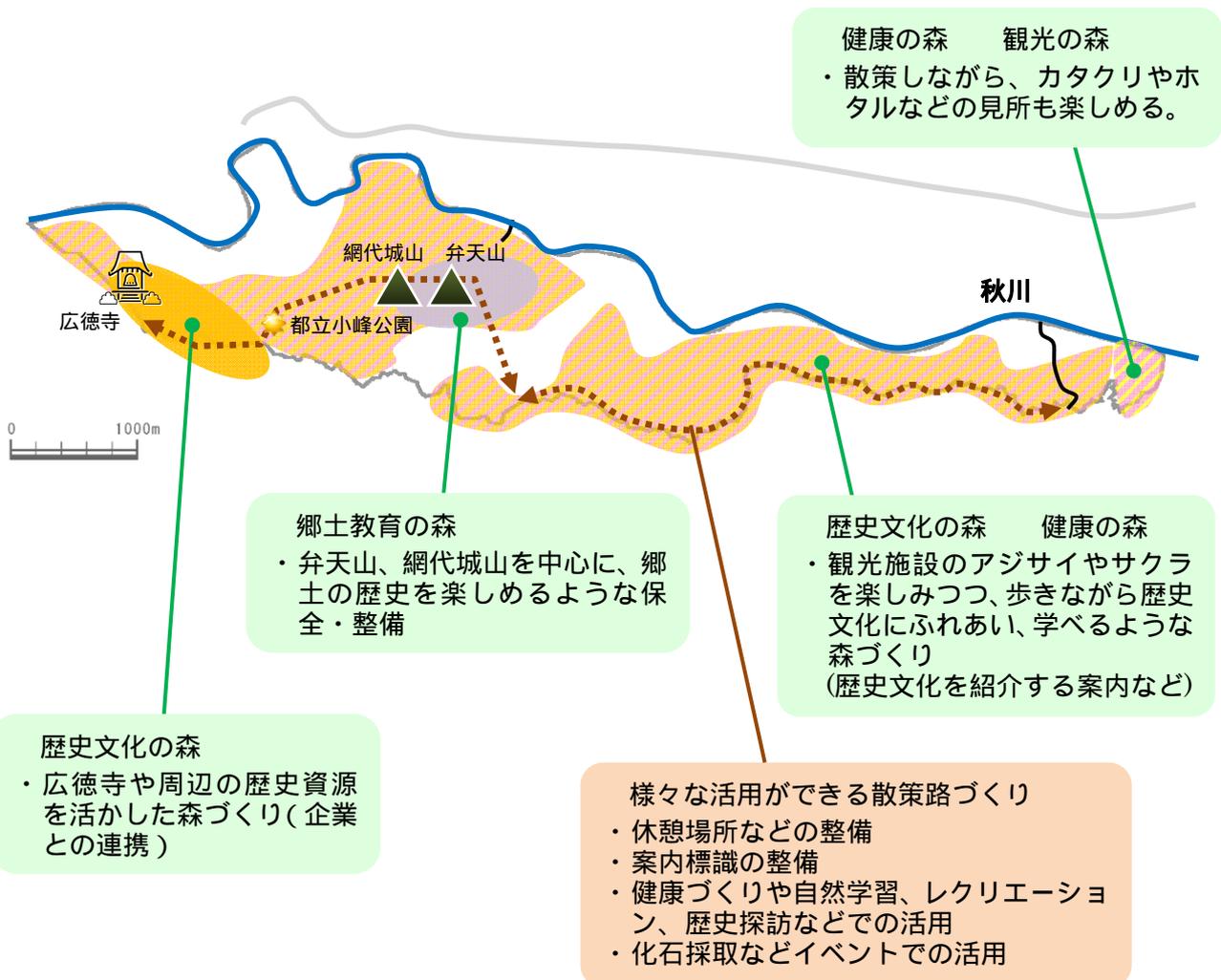
正式名称は「城山(じょうやま)」だが、戸倉地区の城山(しろやま)と区別するため、ここでは「網代城山」とする。

■森づくりの方針

秋川に沿ったゆるやかな丘陵地の広がり、弁天山、網代城山、都立小峰公園、カタクリ群生地や棚田の風景などの見どころ、広徳寺や周辺の神社仏閣、地域に伝わる物語の魅力などを活かし、楽しく散策できる森づくりを進めます。

様々な表情を見せてくれる雑木林などの活用
周辺の観光施設との連携も視野に入れた、健康づくりや自然学習、レクリエーション、歴史探訪など、様々な活用ができる散策路の整備

地区の将来イメージ



⑦ 三内・横沢地区

■森の特徴と地域資源

- ・ トウキョウサンショウウオをはじめ、希少な動植物が生息・生育している。
- ・ 地区内及び周辺には、大悲願寺や三内神社、伊奈石の石切場跡などの歴史・文化資源、化石が発掘できるなどの地質・地形的に価値のある場所がある。
- ・ 横沢入里山保全地域があり、地域の活動団体や各種団体、東京都、市の連携による保全活動が行われ、里山環境の回復が図られている。

■森づくりの課題

- ・ 地区内の森や資源を回遊できる散策路の整備が必要
- ・ 周辺資源と連携を図るための市有林の活用の検討が必要
- ・ 横沢入里山保全地域のさらなる活用が必要

地区の現況



小机林道周辺の森



三内神社（天竺山山頂）



三内神社（天竺山山頂）からの眺望



横沢入里山保全地域

■森づくりの方針

横沢入里山保全地域での活動や成果を活かし、多様な主体による森づくりや資源を活かした体験学習などを進めます。

大悲願寺や三内神社（眺望）、伊奈石の石切場、地質的に特徴のある場所など、地区内及び近隣の歴史文化資源を活かして、森の魅力を高めます。

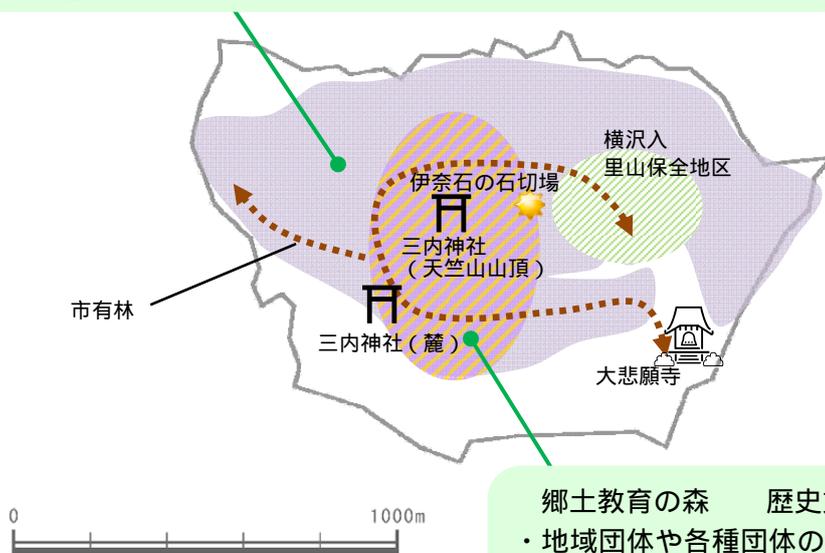
横沢入里山保全地域の維持管理活動の拡充

里山・歴史・文化にふれながら回遊できる散策路などの整備

地区の将来イメージ

郷土教育の森

- ・地域団体や各種団体の連携による保全活動の拡充（横沢入里山保全地域）
- ・希少動植物に配慮した森づくり
- ・化石採取などイベントでの活用
- ・各種資源を紹介する看板の設置やガイドの育成
- ・各種資源を巡るコース整備



郷土教育の森 歴史文化の森

- ・地域団体や各種団体の連携による保全活動の拡充
- ・希少動植物に配慮した森づくり
- ・各種資源を紹介する看板の設置やガイドの育成
- ・各種資源を巡るコース整備

【コラム】横沢入里山保全地域における保全活動

横沢入里山保全地域では、企業・NPO・東京都が連携した東京グリーンシップ・アクションにより、里山保全活動（草刈りや農業体験など）が行われています。

平成20年度（2008年度）からは田んぼの作業がはじまり、横沢自治会をはじめ、地域の自治会有志により発足したNPO法人横沢入タンボの会が、手作業による田植えや稲刈りなどの指導を行っています。



[コラム]発掘！各地区の特徴的な資源

この構想を策定する過程で再発見・再発掘した、各地区の特徴的な資源をご紹介します。

戸倉地区

■ 倉山活命の秋（戸倉の山が命を救うとき）

天保の飢饉（ききん）の際、他村の人が食料を求め、戸倉に“ところ芋”を掘りにきました。その時、それを追い払おうとした人々を抑え、掘るにまかせた名主の徳を称えた光厳寺僧侶の言葉です。



ところ芋の碑

この逸話は、「ところ芋の碑」に刻まれ、今に伝えられています。

■ 戸倉小学校（愛鳥モデル校）

昭和42年（1967年）に東京都愛鳥モデル校に指定され、それ以来40年以上にわたり愛鳥教育が続けられています。校地内には野鳥誘致園があり、当時から環境教育の一環として、児童による探鳥会が行われています。

■ 城山

中世にこの地域の地侍が組織した武州南一揆の根城で、戦国時代後期は檜原城と網代城山の間で狼煙（のろし）をリレーするための拠点であったと考えられています。東の方角から城山を眺めると、左側が絶壁になっているのがわかります。ここには仏像構造線*と呼ばれる大きな断層が走っており、これに沿って逆沢が流れています。



昭和初期の城山

頂上からは秋川谷とその先の関東平野を一望することができます。

小宮地区

■ 五柱神社の大スギ

五柱神社にそびえる大スギは、幹周りが8m以上もあり、訪れる者を圧倒する存在感を放っています。

このスギは、東京都内で一番大きい（胸高直径が大きい）スギであると言われています。



五柱神社の大スギ

■ 鍾乳洞と洞窟性昆虫

養沢地区には、長い年月をかけて石灰岩が侵食されてできた鍾乳洞がいくつも見られます。これらの石灰岩は、かつてこの地域にサンゴ礁の海が広がっていたことを示しています。

また、洞内の特殊な環境に適応して目や体色が退化した昆虫が見られます。養沢で初めて発見されたものや地域に固有な種も多く生息しています。

深沢地区

■ 江戸城築城に貢献した真光院

太田道灌による江戸城築城の際に、深沢は多くの木材を提供しました。

その貢献に対して、真光院建立の援助をしてもらったという逸話があります。



真光院

■ あじさい山

南沢のあじさい山は、山主さんの尽力により美しい花を咲かせます。周辺の針葉樹林と一体となり創りだされる幻想的な



満開のあじさい山

空間は、市の観光スポットになっています。

菅生地区

■菅生の組立舞台

明治42年(1909年)にはじめて作られた組立式の舞台です。廻り舞台や花道つきの本格的な農村歌舞伎の舞台で、普段は解体されて保存されています。



組立舞台

昭和30年代に一度途絶えてしまいましたが、昭和50年(1975年)に再興され、都の有形民俗文化財に指定されました。

草花丘陵

■秋川が生んだ「土の巨人」

この地域出身の考古学者塩野半十郎は、関東地方、特に多摩丘陵の遺跡発掘において中心的な役割を果たし、「土の巨人」とも呼ばれる人物です。その晩年に東京国立博物館に発掘品の大半(約1万点)を寄贈しています。

生家の玄関には、「多摩を掘る」と彫られた小さな自然石の石碑が建てられています。

秋川・滝山丘陵

■東京サマーランドの“秋川千本桜”

1500本の桜が咲き乱れる様子は、あきる野の春の代名詞のひとつとして、親しまれています。



秋川千本桜

■ステゴドン・ボンピフロンスの発掘

網代の御前石の工事現場で、ステゴドン・ボンピフロンスという巨大なゾウの化石が発掘されました。発掘された化石は、ほぼ1頭分で、日本で見つかったゾウの化石としては、最大級の大きさです。

■雨武主神社

雨間地区の氏神として古くから親しまれており、明神山の奥に鎮座する本殿の4つの壁には、飛騨の匠の系譜を引くと称する後藤三次郎らの手による凝った板彫がはめられています。

また、神社の周辺の森はスギ・モミ・ツガなどの高木群からなり、特にツガ林は、東京周辺の丘陵地では他に例のない貴重な針葉樹林として注目されています。



(上) 本殿の彫刻
(左) ツガの木

三内・横沢地区

■伊奈石

この地域では、昔から加工しやすい砂岩の石材が産出されました。かつての生活必需品である石臼に使われ、「臼は伊奈臼 新町小麦 ひけばひくほど粉がでる」という、臼挽き歌も残っています。また石仏や建物の土台などにも使われ、石造物は秋川を下る筏に乘せられて、広範囲に流通していました。



伊奈石

石切場の遺構では今でも石を割り採るためのクサビの跡などを見ることができます。

■大悲願寺の白萩

伊達政宗が所望したことで知られる大悲願寺の白萩は、9月になると、境内に美しい花を咲かせます。

白萩のお礼にと 仙台から贈られた臥竜梅(がりゅうばい)も趣のある小柄な姿を見せてくれます。



大悲願寺の
白萩